

## 令和4年度第2回地域医療構想調整会議 議事録

日 時 令和4年10月3日(月) 18時30分～19時30分

開催方法 Web会議 (Zoom) 及び101会議室

出席者 別添「出席者名簿」のとおり

議 題 1 上川中部圏域地域医療構想等について

2 病床機能転換等計画について

### 議 事

- 1 上川中部圏域地域医療構想等について [資料1] 〈事務局 大辻より説明〉
  - ・ 地域医療構想は、団塊の世代が75歳になり、医療や介護が必要な状況になっても住み慣れた地域で生活を継続できるよう、効率的かつ質の高い医療提供体制と、地域包括ケアシステムを構築し、地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するために策定され、高度急性期、急性期、回復期、慢性期の機能区分ごとに推計された2025年の必要病床数に近づくよう、地域において病床数や各医療機関の計画等を共有、議論している。
  - ・ 上川中部圏域では、「人口構造・疾病構造の変化を見据えた回復期機能の確保及び在宅医療の確保」を重点課題としている。
  - ・ 今回協議する計画は、旭川脳神経外科循環器内科病院と上村産科婦人科医院が同一法人となり、上村産科婦人科医院の急性期病床18床を旭川脳神経外科循環器内科病院が活用し、さらに旭川脳神経外科循環器内科病院の慢性期病床20床を急性期病床へ転換、18床を廃止するというもの。圏域全体で、上村産科婦人科医院の18床が廃止される形となる。更に、今回の旭川脳神経外科循環器内科病院急性期病床の増加分は、2025年までに回復期病床に転換予定となっている。
  - ・ 上川中部圏域では回復期病床が不足し、他の機能の病床は過剰であるため、これまで、急性期病床を増加させる計画は認められていなかった経緯がある。一方、今回の計画については、今回増床した「急性期病床」分を、2025年までに、当圏域で不足している「回復期病床」に転換する計画となっている。
  - ・ 過剰な病床への転換計画については、地域の実情を踏まえた議論と、地域の了承が肝心であるため、協議についてよろしくお願いしたい。
  
- 2 病床機能転換等計画について [資料2-1] [資料2-2]  
〈旭川脳神経外科循環器内科病院 鎌田事務長代行より説明〉
  - ・ 現在、医療法人社団稲仁会旭川脳神経外科内科病院は120床を運用、医療法人社団利信会上村産科婦人科医院は急性期病床19床を運用。

- ・ 今回の計画は、上村産科婦人科医院を医療法人社団稲仁会に事業譲渡の上開設し、上村産科婦人科医院の急性期病床 19 床のうち 18 床を旭川脳神経外科循環器内科病院に移動。旭川脳神経外科循環器内科病院は療養病床 18 床を返還し、20 床を一般病床に転換する。地域全体では急性期病床が 20 床増加、慢性期病床は 38 床減少し、全体としての病床数は 18 床減少する。
- ・ 旭川脳神経外科循環器内科病院は、脳卒中、急性心筋梗塞、救急医療を担い、昨年の救急受入台数は年間 1,300 件を超えている。整形外科、外傷の救急受入について、2022 年に整形外科医、麻酔科医、看護師、コメディカルを配置し体制は整っている。入院患者は中等度から重症例が多く、また、新型コロナウイルス感染症の重点医療機関の指定を受け急性期病床 42 床を使用中であり、現在、整形外科については慢性期病床を使用している状況。整形外科の拡充も含め、急性期病床が不足しており、外科当番病院等の実施までに急性期病床の拡充が必要である。
- ・ 今回、一旦、旭川脳神経外科循環器内科病院の急性期病床を拡充するが、2025 年までには地域の必要病床数を確保するために、サブアキュートを軸とした回復期を実施する。将来的には、今回転換した急性期病床を地域包括ケア病床、回復期への転換を目指しているが、今は足元の救急患者受け入れ、チーム医療充実させ、地域の救急を守るために、本計画を了承いただきたい。

### 3 質疑応答

- 2016 年から救急車の受入が増えてきた要因は何か。

【回答】旭川脳神経外科循環器内科病院 鎌田事務長代行

2015 年に循環器内科医が就任してから救急の受入を積極的に行っており、徐々に受け入れ台数が増加している。病院でも救急救命士を採用する等、救急を受け入れる体制を整えていることも要因の一つだと思う。

- 循環器の患者が多いのか。

【回答】旭川脳神経外科循環器内科病院 鎌田事務長代行

循環器以外でも、一時的な診療も含め、全ての疾患について可能なものは対応。

- 医師会では、市内の救急医療の各病院の受入体制等は把握しているか。

【回答】滝山議長（旭川市医師会長）

旭川日赤病院が一番多く、一割程度をカバーしている。

- 事務局の説明、資料 1 の中で、一般的には一時的であっても「急性期病床」を

増やす計画は認められないと記載されているが、今回の計画は矛盾しないのか。

【回答】事務局 大辻

一般的には、ということだが、最終的には地域の実情に基づいて、地域で決定するということになっている。

○ 外科の一次当番には参加しているのか。

【回答】旭川脳神経外科循環器内科病院 鎌田事務長代行

10月から参加している。

○ 新型コロナの患者を受け入れながら、一般の救急患者の受け入れは難しい状況で、急性期病床が増えること自体は歓迎すべき。これからは骨折、循環器、動脈硬化疾患等も増えると思われるので、その意味でも本計画には賛成する。

2025年に増加分の急性期を0にすることということだが、そこにいる医師のメンタリティーとかモチベーションはどうなるか。

【回答】旭川脳神経外科循環器内科病院 鎌田事務長代行

2025年には、地域包括ケア病床に転換する計画だが、急性期と回復期の中間ぐらいの位置づけと捉えており、受け入れている患者の層を大きく変えずに転換が可能と考えている。職員からも、一旦、急性期病床で職員数や救急治療を拡充してから地域包括ケアに転換したいという要望があったもので、モチベーションも維持できるものと考えている。

○ 過剰とされている急性期病床を増やすのであれば、理由付けが必要。地域包括ケア病棟でも救急患者の受け入れは可能で、人員基準も急性期病床より必要というわけではなく、初めから地域包括ケア病棟にすることは可能。そのため、相当強く地域に貢献するのでなければ、会として急性期病床を増やすことを認めるべきではない。強い貢献とは、やはり、外科の輪番当番に対する協力であり、これをしっかりやっていただくということが前提である。

【回答】旭川脳神経外科循環器内科病院 後藤副院長

現在、準備段階で対応できていないが、医師会からも早急に輪番に加わるよう話がきており、加わることは決定している。整形及び救急を担う意欲は十分にあるので、よろしくお願ひしたい。

○ 慢性期病床を廃止して急性期病床にする計画だが、一般的に慢性期病床だと長期に入院する方が多いので、受け入れ先がどうなっているか聞きたい。

また、急性期病床から回復期病床に転換するということは、簡単にできるのか聞きたい。整形外科は急性期の患者が主体となることから、結局、急性期病床が必要であり回復期病床への移行が無理ということにならないか懸念している。急性期病床を増やしたままになるのではないかと危惧しているので質問した。

【回答】旭川脳神経外科循環器内科病院 稲葉院長、鎌田事務長代行

現在、慢性期病床に入院している患者はおらず、その病棟を整形外科の患者に充てている状況。

回復期の地域包括ケア病床の転換については、厚生局の届出等で在院日数や在宅復帰率等求められるが、当院には回復期リハビリテーション病棟があることから、急性期治療が終わった患者をそちらに移す等により運用してゆく。また、2～3年で訪問看護や訪問診療を充実させ、患者を在宅でもケアできる状態を確保し、基準を守り、回復期の基準に転換するという計画を立てている。

○ 地域の実情考えると、急性期病床を一時的にでも増やすのは困難であり、急性期病床の増床を経ずに、上川中部圏域で不足している回復期病床へ移行ということは考えられないのか。

【回答】旭川脳神経外科循環器内科病院 稲葉院長

救急車の受け入れ依頼の台数が増えている状況で、当院もゲートキーパーとして頑張っているが、病床がない。お願いしている二次医療機関でも病床がいっぱいで、なかなか患者の入院先が決まらず、大変苦しんでいる。整形外科の救急も含め、急性期病床が本当に必要な状況であると考えている。

○ 旭川市医師会としては、これから冬期間になると整形の患者が増えてくることもあり、今回、前の病院で整形を担っていた先生が移ってきたということで、外科の救急を行っていただければという話をしていたところ。今後、外科の外来を担うものと理解している。

○ 計画を認める場合、数年後に地域包括ケア病床に変えるという計画通りに進むのか、この会議として見てゆく必要がある。それをしないと、いつまでも地域で急性期病床だけが増えていくことになる。国の方針は在院日数を縮めることで、今後、救急病床も維持できなくなり、必然的に回復期に変えざるを得なくなると思う。やはり、この調整会議としては、きちんと急性期病床をコントロールし、数年後に回復期に変えるということをきちんとチェックしてゆくべきだと考える。

- 旭川脳神経外科循環器内科病院が説明したのは計画で、努力目標であるが、それがもし、うまくいかなかった場合に、行政としてペナルティー等はあるのか。

【回答】事務局 大辻

法的なペナルティーのようなものはない。ただ、会議の中でいただいた意見のとおりに、地域の中で決定した内容を守っていただくということで、今後、毎回、会議の中で経緯を見守り、共有してゆく形となるため、委員の皆様にもご協力をお願いしたい。

#### 4 議事結果

旭川脳神経外科循環器内科病院及び上村産科婦人科医院の計画について了承。

#### 5 その他

##### (1) 紹介受診重点医療機関について

- 紹介受診重点医療機関が来年4月から始まり、道で指定することとなっている。調整会議で決まることと思うが、どのタイミングで会議を開催するのか、計画を聞かせてほしい。

【回答】事務局 大辻

調整会議の日程等は未定だが、例年は年度末に開催している。紹介受診重点医療機関の協議等が必要となれば、その段階で開催する。

- 紹介受診重点医療機関については、道が指定しなくてはならない。行政の方に放置されては困るので、しっかりと対応いただきたい。

【回答】事務局 大辻

方針が決まったら、どういう形で会議をするかも含め連絡する。

##### (2) 北海道地域医療構想調整会議協議会について 〈事務局 南波課長より報告〉

10月16日(日)13時から、「北海道地域医療構想調整会議協議会」が開催される。上川中部圏域からは、滝山議長と上川保健所南波課長が現地で参加し、旭川市保健所伊藤課長補佐及び上川保健所大辻もWeb会議に参加予定となっているので報告する。

以上